

体験するケンチク

代官山 T-SITE
代官山 蔦屋書店

新企画では、記者たちが体験した建築空間の面白さや居心地良さを報告します。今回は代官山蔦屋書店を訪問し、カルチュア・コンビニエンス・クラブ広報の元永純代さんにお話をうかがいました。

この書店のユニークな点は？

ここは書店なのに実は本のジャンルは六つだけ。なぜかというところ、ここは本を買うのではなく、「発見をしながら、ただ何となく時間を過ごす」ための場所だからなんです。気持ちいいからなんとなくここに来ると「あ、こういうのが欲しかったの！」と何かが見つかると。「こんな生活ちょっと良くない？」という「ライフスタイル提案」をしていっているんです。だからここに来ると、本以外にいろいろ見つかるといえるのがユニークだと思います。

建築に込めた思いは？

何かを発見しやすくしているのと、長い時間を過ごせるように、とても心地よくしました。例えば、椅子をたくさん置いてどこでも座って本を読めるようにしました。いろんなところに座るところがあつて、直接視線は合わないけど、なんとなく人の気配も感じられたりもします。誰もが思い通りの過ごし方ができるような、居心地良さを形にしています。

どんな人たちが来ますか？

ここは皆さんのお父さんやお母さんより少し上の年代の人たちに向けたお店なんです。コロナ感染症が広がる前は早朝から深夜まで開店していたので、いろいろな年代の人がいました。朝は比較的年配の人や、犬の散歩をしている人が多いです。夜は二、三〇代の人が多いです。昼はいろんな世代の人がいます。それと隣に高校があるのでも、夕方に学生がアイスを買いにコンビニに寄ったりもします。そして敷地内のエリアによって、いる人のタイプが全く違うのが面白いんです。

どんな場所か人気ですか？

ここに毎日来るような人には、なんとなく好きな場所があるんです。この場所が好き、この席が好き、という人が多くて、だからそれぞれ思い思いの好きな場所を見つけて、そこで過ごしています。私は音楽フロアの向こう側を見るのが好きです。そこが一番ながめがいいから。みんなもそれぞれ好きな場所を見つけてください。

おすすめの過ごし方は？

人それぞれ違いがありますが、私のおすすめの過ごし方は、コーヒーを飲みながらベンチで本を読むことです。代官山蔦屋には、コーヒーを販売している店舗は3店あります。そして書店内のどこへでも、コーヒーを持って行っているんです。それぞれ値段や味は違って、自分のその時の気分に合わせてコーヒーを選べます。「いろんなものがあるから、好きにしたいんだよ」というのが、この過ごし方の一つです。

本屋なのに飲み物OKなのは？

本屋さんで立ち読みする時にずっと立っていると疲れてしまうでしょう？座って読んだ方がいいですよ。そして、そういう時にコーヒーやジュース

代官山 蔦屋書店の建物の大

きな特徴の一つは大きなTの外観です。建物正面のデザイン(ファサード)は、TSUTAYAのTの形になっています。この大きなTは小さなTのパネルが集められてできています。この大きなTは旧山手通りを店に向かうに従って見えてきます。書店は三つの建物からなっています。歩道を進んで近づく1号館の大きなTが見えてきますが、まだ2号館は見えません。さらに進んで2号館のTが見えてきた時、まだ3号館のTは見えてきません。3号館のTが見えた時には、1号館のTが見えなくなっています。



私だけのVIPルーム？



あおい：3号館2階の角にある部屋で、壁が2面大きくガラス張り、居心地いいです。木の葉が茂って窓をおおって見えて、木登りしているような、浮いているような感覚になってとても面白いです。窓際には縁側のようにソファが設置されていて、横に本棚があつてちょっとプライベートな安心する空間です。

私はここでコーヒー飲むの好きです

ケンチクDATA

代官山 T-SITE
代官山 蔦屋書店
所在地：東京都渋谷区
開業：2011年
建築設計：クラインダイサムアーキテクト

ここは本当にキレイでしょ？

つまり三つのTは同時には見えない配置です。なぜかと言つと、ここは「森の中の図書館」を目指したから、このことです。森は入ってみるまでは奥が見えないけれど、進むごとに少しずつ見えてきます。すると人は、**どんどん奥に進みたくくなります**。自然と中に入っていく工夫がされているそうです。書店三棟から奥の庭は散歩道でつながって、レストランや自転車道、おもちゃ屋などの店舗があります。これら施設全体が代官山 T-SITEです。蔦屋書店一階は三棟を貫く五十五mの「マガジンストリート」が通っています。ここから中に入ると「人文」「建築・デザイン」「車」「アート」「料理」「旅行」という、六つの専門書コーナーがあります。二階にはラウンジや映画、音楽、児童書のコーナーがありますが、**本を買う店ではない**という代官山蔦屋書店とは、どんな場所でしょうか？ 記者たちが探検しました。

*ここで紹介する記者たちが体験した建築・空間は、21年9月下旬でのものです。なお店内撮影は取材のために特別に許可をいただいたものです。

どの季節がおすすめです？

ここは書店だけ木があつて花が咲いていて虫もいます。窓がたくさんあるから天気もわかります。棟を移動する時に雨が降っていればぬれるし、暑い寒いも感じます。普通は建物の中にいると外の様子がわからなくなるけど、ここにいると季節や時間がよくわかるんです。だからどの季節というより、季節がわかるところが良いところですよ。

二を食物にたとえると？

コーヒーのようなものかな。何かしっていて「うーん、これでもいいの？」って悩んだ時などに、コーヒーを飲んだら「あ！」となる。「こういう方法もあつたりして」って思う。コーヒーって、何か見方が変わったり、切り替えたり、発見したりする時にお供にあるものなんです。今は本もネットで買える時代ですよ。でもここでは、何かを見つけて「あ！」って買える。そんなコーヒーに似た「あ！そういうえば」と思える場所だと思います。

がくわがの小窓発見!!



ゆず：外のレストランと駐車場の間の少し狭い抜け道を通っていくと、レストランの裏側の足下の部分に、道に向かった小さな窓が見えます。外に比べて中が暗く見えるので、隠れ家のように興味をそそられます。普通では気づかない、隠れた面白さです。



すわりくなる階段



かりん：2号館の1階と2階をつなぐ階段と、その下のギャラリーフロアが好きです。薄暗くて落ち着く感じがしました。1.5階みたいなところで2号館全体を見渡せて、1階や2階から見るときとは違う視点でフロアを見られる点も好きです。

記者のお気に入り

こう見えるのは私も新発見でした！

うら：私のお気に入りの場所は本屋の中です。遠くまで見通せる普通の本屋とは違い、狭く天井も低くなっていました。だから、すごく落ち着く空間だと思いました。壁には本棚が前に後ろにも横にもあつて、それがすごく素敵だと思いました。



カエデ：私は1階の本の小部屋のようなところが一番良かったです。私は本が好きなので、トンネルのように360度本に囲まれるようになっていくのが気に入りました。天井が低くて狭かったのが、とてもゆったりできて良かったです。

ここは居心地良くするためにわざと狭く作ってあって、「ヒューマンスケール」というデザインの考え方です

家のように感じるように本棚の照明も工夫しました。均一でなく明るいところや暗いところがあるようにしています。